13. バックアップ

iStorage NS は大容量ボリュームを多人数のユーザーが使用するという性質上、データの安全性には十分に留意する事をお勧めします。データの安全性を保つには、定期的かつこまめなバックアップが必要不可欠です。iStorage NS には標準で、テープ装置にバックアップを行うバックアップツールが付属しています。またオプションとして、VERITAS NetBackup、VERITAS BackupExec といったバックアップソフトウェアをお選びいただけます。多くのテープデバイスに対応し、様々なバックアップ設定が可能なこれらのバックアップソフトウェアをお選びになることをお勧めします。

<運用例>

- ファイル更新などの無い夜間等にバックアップをスケジューリングするか、もしくはそのような時間帯に手動でバックアップ対象フォルダ等を指定して、テープ媒体等へバックアップを行う。
- 別オプションでオープンファイルオプションを利用して、iStorage NS のファイルサービスを運用しながらバックアップを取る。

このような運用は、例えば、毎週日曜日にバックアップをスケジューリングしておき、対象のデータ領域を決められた日時にテープ媒体等にバックアップしておき、万一の Disk 障害時に、バックアップ時点へデータを戻すという形になります。

以降の節では、標準のバックアップツールでのバックアップ手順、各オプションソフトウェアの基本的なインストール手順を紹介しています。各バックアップソフトの詳細なインストールやバックアップ手順に関しては、各ソフトウェアの説明書をご参照下さい。

スナップショット機能で作成されるスナップショットイメージをバックアップすることはできません。バックアップを行う際は、スナップショットではなく、実データをバックアップ対象に指定して下さい。

VERITAS NetBackup、VERITAS BackupExec における Intelligent Disaster Recovery はご利用いただけません。

13.1. WebUI による標準バックアップ

13.1.1 バックアップ

① WebUI を起動し、プライマリナビゲーションバーから[メンテナンス]を選択し、その後、[バックアップ]をクリックします。

終了する際は、「ジョブ－バックアップの終了」メニューで終了してください。ウィンドウ右上の[×]を押して終了しないようご注意ください。

② [Windows へログオン]ダイアログボックスが表示されます。ログオンして下さい。

③ [バックアップ] ウィンドウが表示されますので運用にあった設定を行って下さい。ツールの使用方法については、「ヘルプ」メニューよりヘルプを参照してください。

バックアップに関する注意事項

3. [メンテナンス－バックアップ]にて iStorage NS にログオンすると、通常、バックアップ画面を開きます。ただし、ブラウザの環境により、ターミナルサービスにて接続した状態となることがあります。この場合は、[スタート－プログラム－Accessories－System Tools－Backup]を起動してください。また、WebUI を使用する際に、ブラウザの URL 入力欄（[アドレス] または [場所] など）に IP アドレスを指定して使用されている場合は、一度、WebUI を終了します。ブラウザを再起動後、URL 入力欄に以下のように iStorageNS のコンピュータ名を指定し、WebUI を使用できる状態になった後、改めて同様の処理を行うと、正しくご利用できるようになることがあります。

   「http://コンピュータ名:8099/」または「https://コンピュータ名:8098/」

4. ターミナルサービス領域に入っての設定画面を同時に開いたままの状態にはできません。このため、[ディスク－ディスクとボリューム] や[ディスク－GAM クライアント]、[ネットワーク－NIC の構成] 、[メンテナンス－バックアップ] 等にて、iStorage NS にログオンしようとした際に以下のメッセージを表示する場合があります。この場合は、[ディスク－ディスクとボリューム] や[ディスク－GAM クライアント]、[ネットワーク－NIC の構成] 、[メンテナンス－バックアップ] 等にて Disk Management 画面や Global Array Manager 画面、Intel PROSetII 画面、バックアップ画面を終了してください。その後、同様のメッセージが表示される場合は、一度ブラウザを終了した後しばらく経ってから操作を行ってください。その後にもメッセージが表示される場合は、iStorage NS を再起動してください。

   －The terminal server has exceeded the maximum number of allowed connections.
   (ターミナルサーバーは許可された最大接続数を超過しました)

   －システムにログオンできません(1B8E)。再実行するか、システム管理者に問い合わせてください。

13.1.2 リストア（復元）

（リストア前の注意）

テープ内のデータを復元先に上書きする必要がある場合、[バックアップ]ウィンドウの[ツール]メニューの[オプション]をクリックし、[復元オプション]タブより、[常にディスク上のファイルを置き換える]を選択し、[OK]をクリックして下さい。

① 前節の手順で[バックアップ]ウィンドウを表示させます。

② [バックアップ]ウィンドウの[復元]タブを選択して下さい。

③ リストアをするドライブ、フォルダ、または、ファイルを選択して下さい。

④ [復元の開始]をクリックして下さい。

⑤ [復元の確認]ダイアログボックスが表示されます。[OK]をクリックして下さい。

⑥ [復元の進行状況]ダイアログボックスが表示されます。リストアが完了したら[閉じる]をクリックして下さい。

13.2. VERITAS BackupExec の使用

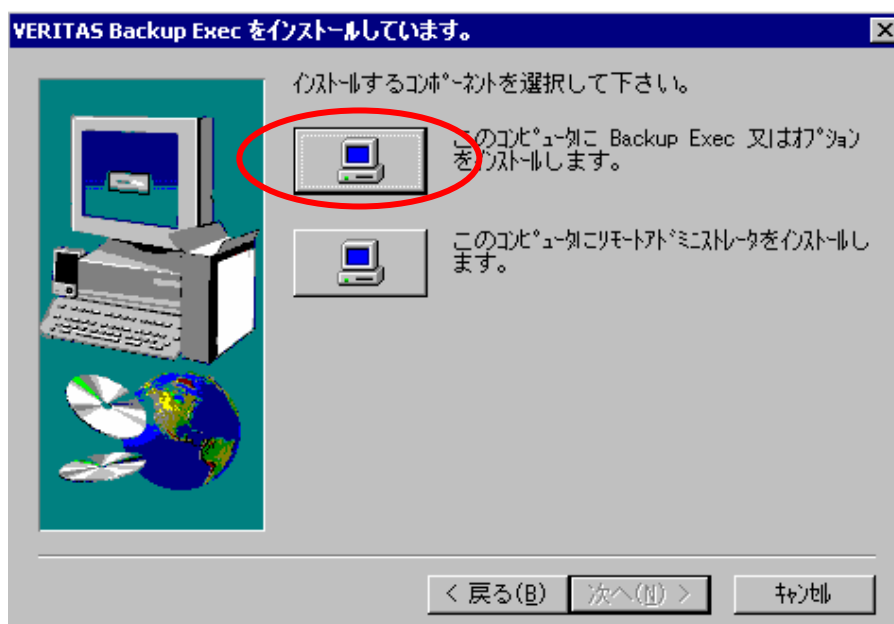
バックアップソフトウェアの使用に関しては、各バックアップソフトウェアの説明書、オンラインヘルプ等を参照して下さい。

Backup Exec のインストール手順

下記の作業は WebUI の[メンテナンス]のターミナルサービスから行ってください。

iStorage NS の CD-ROM ドライブに Backup Exec のインストール CD（English・日本語と表記されたもの）をセットすると自動でインストールウィザードが起動します。（自動でインストールウィザードが起動しない場合は、手動でエクスプローラから[CD－ROM]－[browser]－[setup.exe]を起動してください。）

1. [翻訳]をクリックしてください。
2. 日本語を選択し、右上にあるアイコンからメニューに戻ってください。
3. [参照]をクリックしてください。下のような画面が表示されます。

4. ツリーの[Backup Exec for Windows NT と Windows 2000]－[ソフトウェアのインストール]をクリックし画面右下の[インストール]をクリックしてください。
5. [ようこそ]ダイアログボックスが表示されます。[次へ]ボタンをクリックしてください。
6. [製品ライセンス契約]ダイアログボックスが表示されますので[はい]ボタンをクリックしてください。
7. [VERITAS Backup Exec 情報]ダイアログボックスが表示されますので[次へ]ボタンをクリックしてください。
8. [VERITAS Backup Exec をインストールしています。]ダイアログボックスが表示されますので[このコンピュータに Backup Exec 又はオプションをインストールします。]ボタンをクリックしてください。

9. [VERITAS Backup Exec のシリアル番号]ダイアログボックス表示されるますので、シリアル番号を入力後、[追加]ボタンをクリックし、[次へ]ボタンをクリックしてください。
10. [Backup exec のインストールオプション]ダイアログボックスが表示されますので、[Backup Exec]、[テープデバイスドライバ]、[オートローダサポートの仕様]それぞれにチェックを入れ[次へ]ボタンをクリックしてください。

11. [デバイスおよびメディアマネージャ]ダイアログボックスが表示されますので、[次へ]　　ボタンをクリックしてください。
12. [ファイル コピーの開始]ダイアログボックスが表示されますので、[次へ]ボタンをクリックしてください。

13. [サービスアカウント]ダイアログボックスが表示されますので、[ユーザー名]に“administrator”と入力し、[OK]をクリックしてください。
14. [権利が与えられました。]ダイアログボックスが表示されますので、[OK]ボタンをクリックしてください。
15. [前回の Backup Exec インストール]ダイアログボックスが表示されますので,何も入力せずに[OK]をクリックしてください。
16. [VERITAS Windows NT/2000 デバイスドライバーインストーラ] ダイアログボックス―[VERITAS Windows NT/2000 デバイスドライバーインストールへようこそ] が表示されますので、[次へ]をクリックしてください。
17. [VERITAS Windows NT/2000 デバイスドライバーインストーラ] ダイアログボックス―[テープドライブを選択しています。] が表示されますので、デフォルトのまま[次へ]ボタンをクリックしてください。
18. [VERITAS Windows NT/2000 デバイスドライバーインストーラ] ダイアログボックス―[ハードウェアを走査しています。] が表示されますので、走査完了後[次へ]ボタンをクリックしてください。
19. [VERITAS Windows NT/2000 デバイスドライバーインストーラ] ダイアログボックス―[VERITAS ドライバをインストールしています。]が表示されますので、[次へ]ボタンをクリックしてください。
20. [VERITAS Windows NT/2000 デバイスドライバーインストーラ] ダイアログボックス―[VERITAS Windows NT/2000 デバイスドライバーインストールを完了します。]が表示されますので、[完了]ボタンをクリックしてください。
21. [プログラムグループの選択]ダイアログボックスが表示されますので、デフォルトをまま[次へ]ボタンをクリックしてください。
22. [質問]ダイアログボックスが表示されますので、[No]ボタンをクリックしてください。（オプションソフトに関しては本書では記述していません。）
23. [セットアップ完了]ダイアログボックスが表示されますので、[完了]をクリックしてください。

13.3. VERITAS NetBackup の使用

バックアップソフトウェアの使用に関しては、各バックアップソフトウェアの説明書、オンラインヘルプ等を参照して下さい。

NetBackup のインストール手順

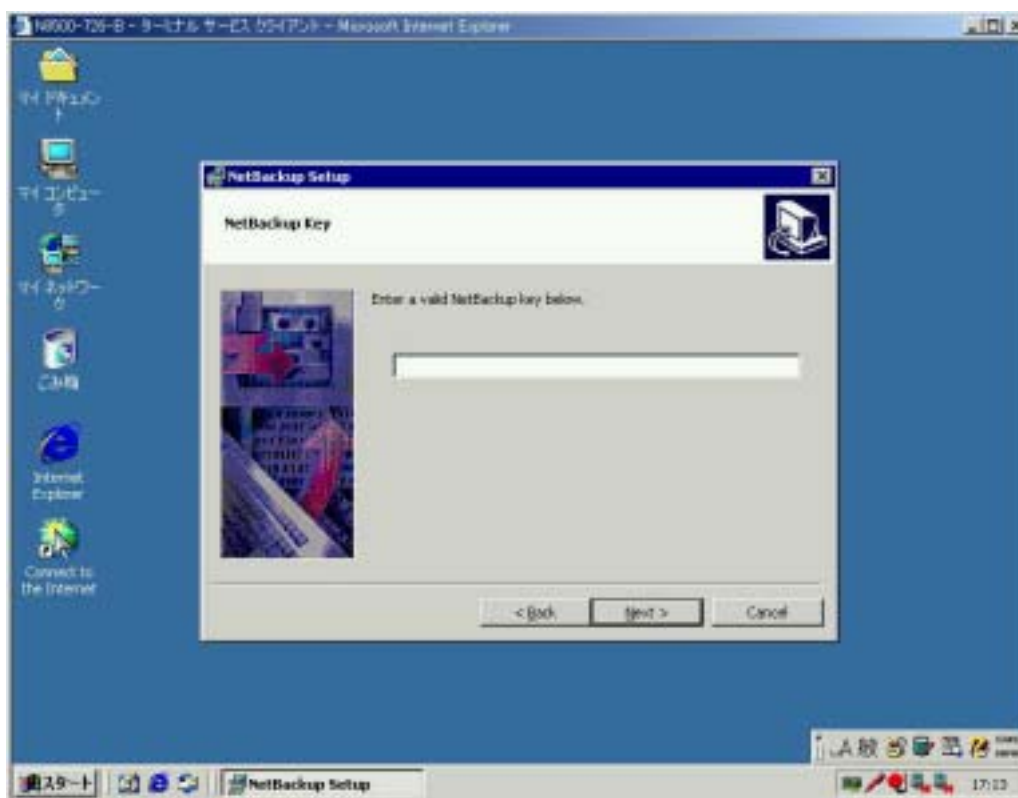
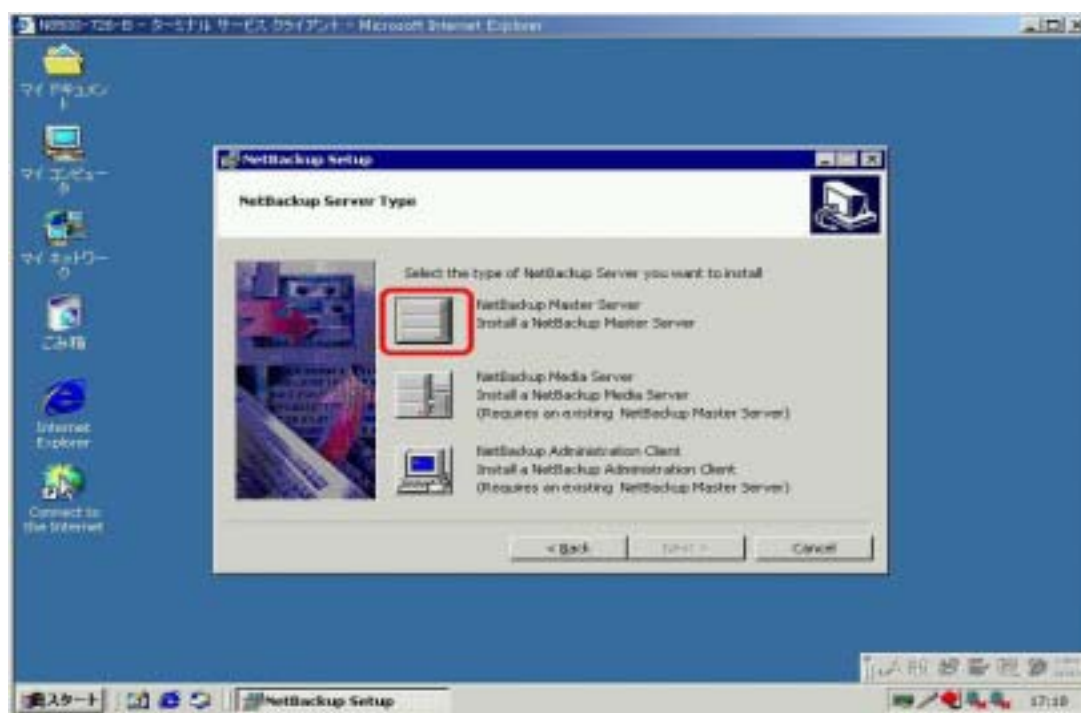
NetBackup マスタサーバーのインストール

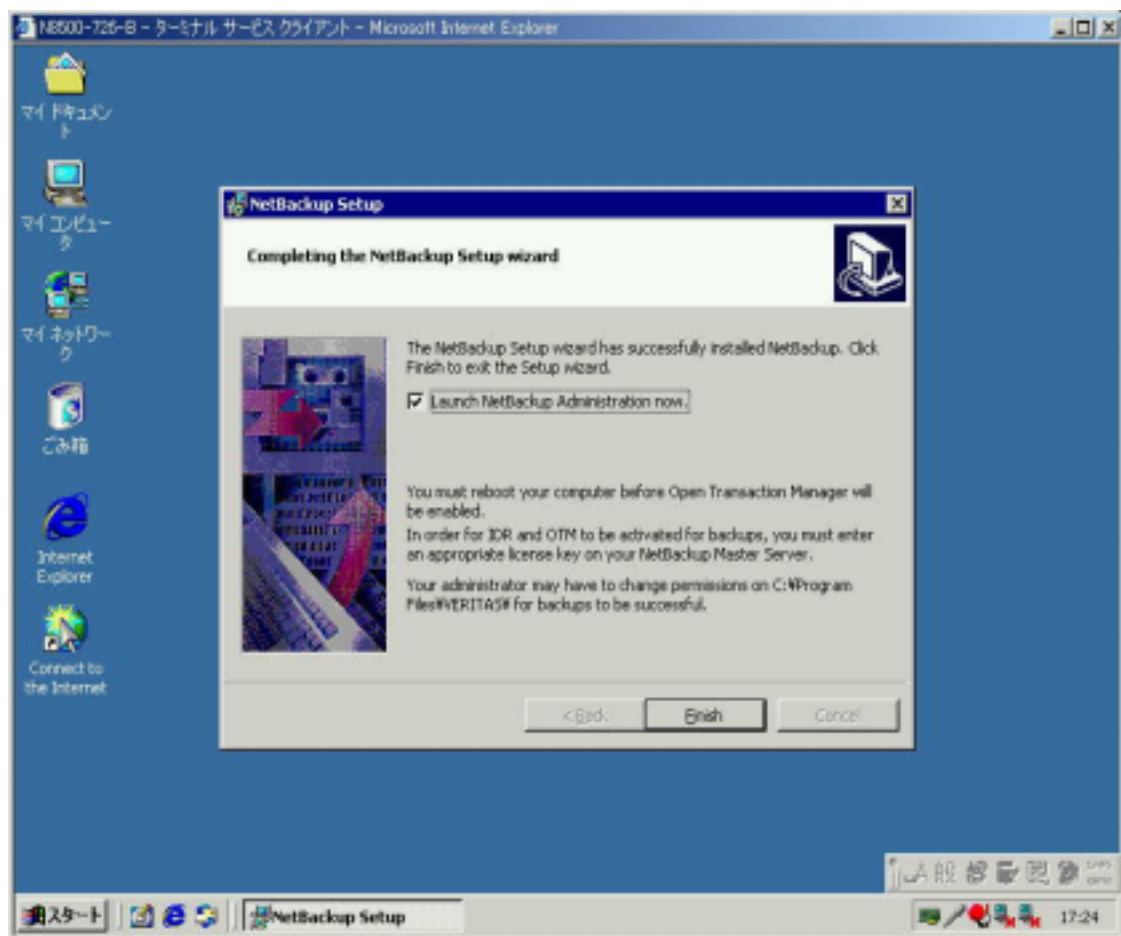
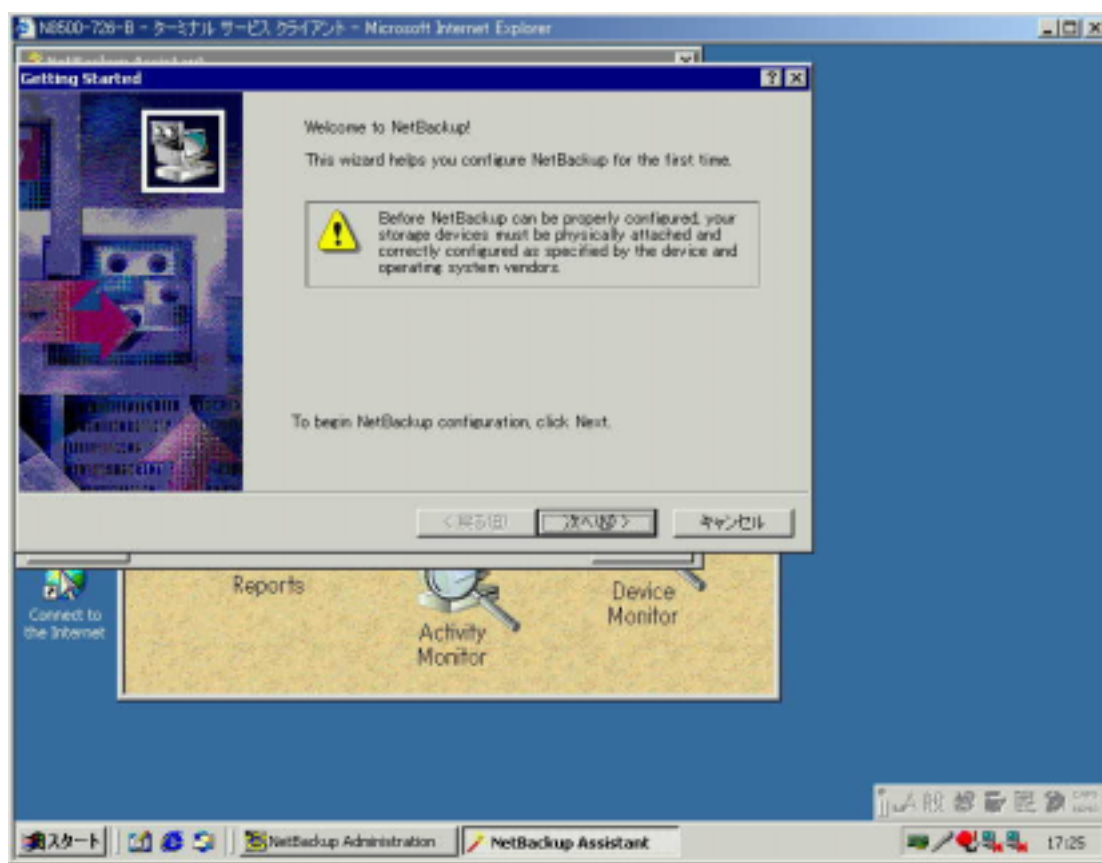
1. クライアント PC で WebUI を起動し、iStorage NS に接続します。[メンテナンス]-[ターミナルサービス]を選択します。

2.　iStorage NS の CD-ROM ドライブに“ VERITAS NetBackup ”CD-ROM をセットし、[スタート]-[ファイルを指定して実行]を選択します。

3.　CD-ROM ドライブの¥AutoRun¥AutoRunI.exe を実行してください。

4.　以下の画面が表示されますので、NetBackup Server for Microsoft Windows NT の Install をクリックします。インストール確認画面が表示されたら OK ボタンを押します。

5.　[Welcome to the NetBackup Setup wizard]画面で Next ボタンをクリックすると、ライセンスキーを入力する画面になります。正確に入力し、Next ボタンをクリックします。

6. 入力したライセンスキーにより、インストールするソフトの種類が表示されます。インストールされるソフトを確認し、Next ボタンをクリックします。
7. 以下の画面では、NetBackup Master Server のアイコンを選択します。以降、ウィザードに従ってインストールを進めてください。

8. 途中、マスタサーバー名を指定する画面が表示されますので、Master Server Name に NetBackup マスタサーバーをインストールする iStorage NS 名を入力し、Next ボタンをクリックします。

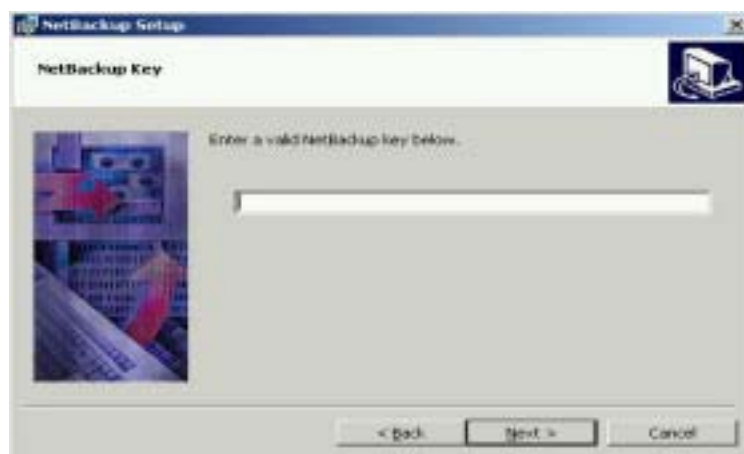
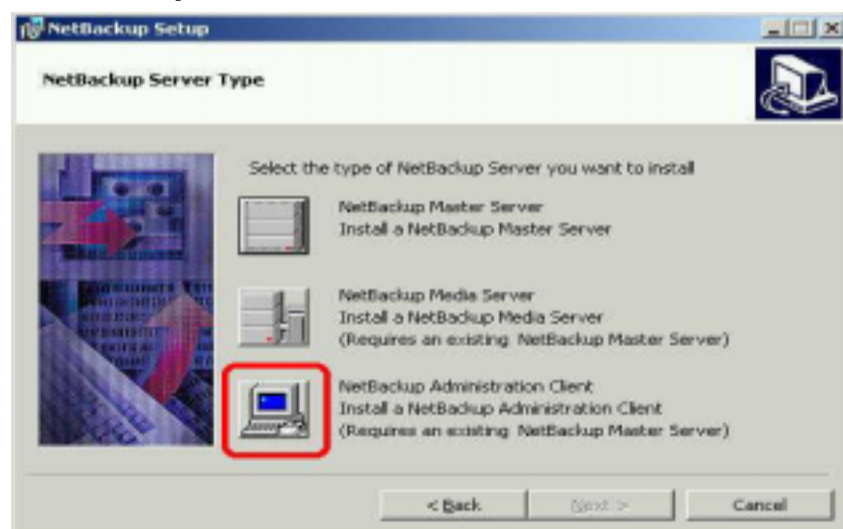
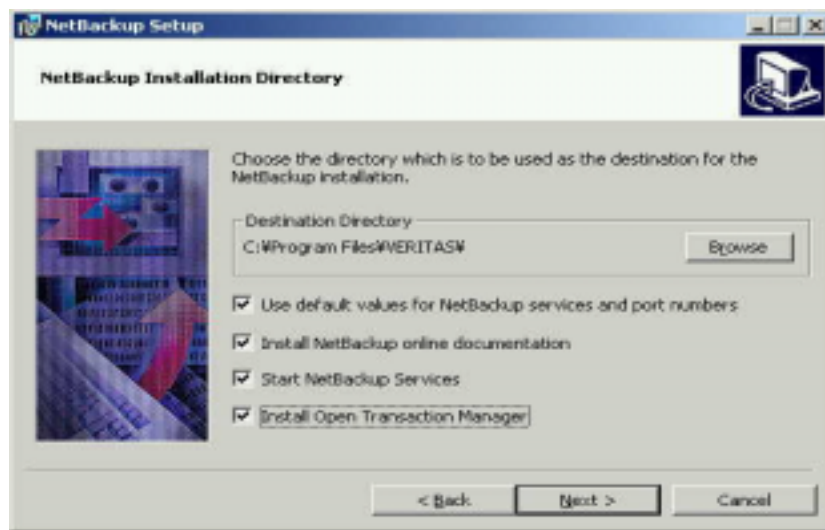
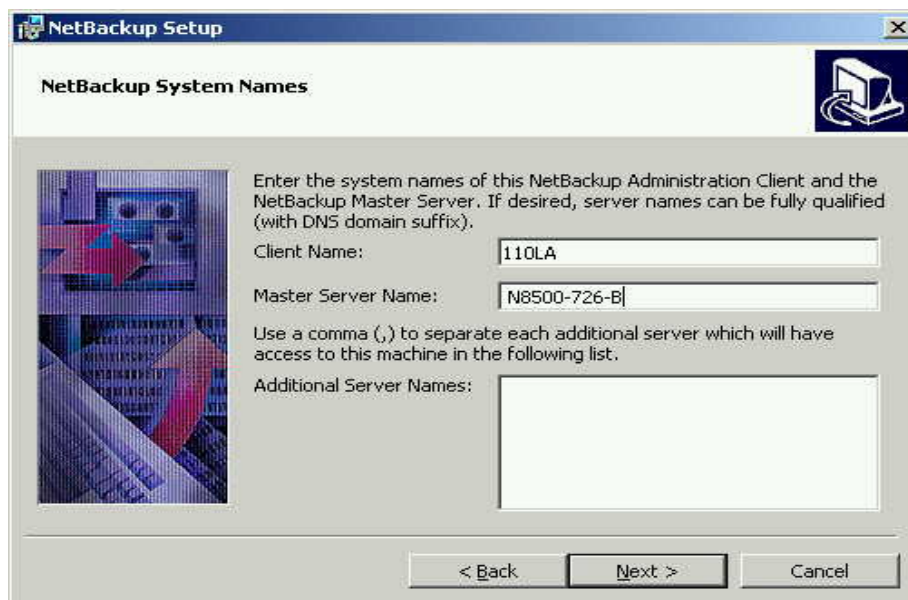
9. 以下の画面が表示され、Finish ボタンをクリックしたらインストール終了です。

10. NetBackup マスタサーバーのインストール後、デバイスなどの設定がされていない場合、以下のような画面が表示されますので、キャンセルをクリックします。

11. [Are you sure you want to exit “Getting Started”?]と表示されたら、Yes ボタンをクリックします。

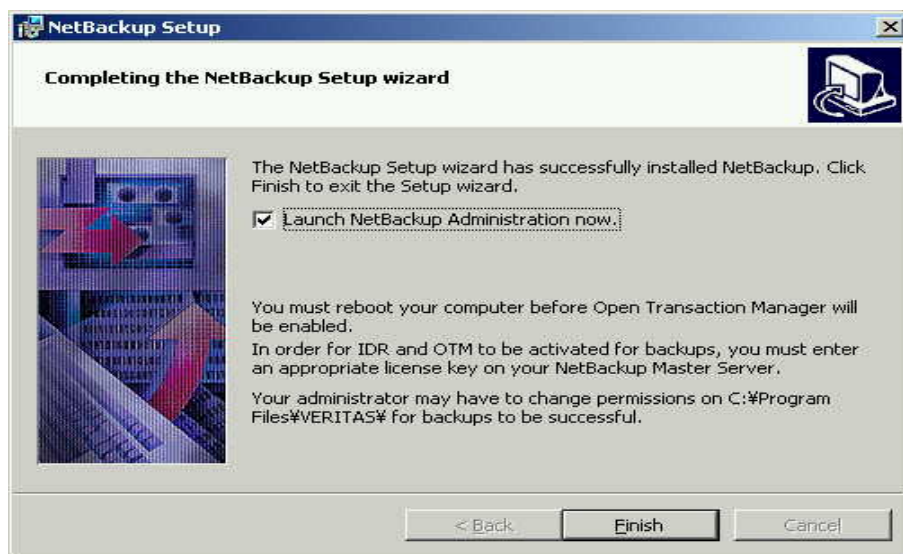
Remote Administrator 機能

Administartion Client をインストールした管理ＰＣから NetBackup マスタサーバーを操作することができます。適用できるプラットフォームは Windows NT/2000 のみです。

Administartion Client のインストール

1. 管理 PC に Administrator の権限を持つユーザーでログインしてください。
2. 管理 PC に NetBackup CD-ROM をセットすると、自動的にインストール画面が起動します。
3. NetBackup Server for Microsoft Windows NT の Install をクリックします。

4. Next ボタンをクリックします。
5. ライセンスキーを入力します。マスタサーバーと同じキーを入力します。

6. Next ボタンをクリックします。
7. [Administration Client]ボタンをクリックします。

8. [Next]ボタンをクリックします。

9　マスタサーバー名を入力し、[Next]ボタンをクリックします。

10　[Install]ボタンをクリックすると、ソフトのインストールが始まります。

11　ファイルのコピーが終了したら以下のダイアログボックスが表示されますので、[Finish]ボタンをクリックします。[Launch NetBackup Administration now]のチェックを有効にした場合、自動で NetBackup Administration が起動し、引き続きバックアップの設定ができます。

以上でインストール作業は終了です。

14. ウィルスチェック

iStorage NS は、多人数のユーザーにより使用されることが多いため、ウィルスに対する備えをしておくことが重要です。ファイルの安全性を保つには、定期的なウィルスチェックを行うことが重要です。iStorage NS では、オプションソフトウェアとして、以下のソフトウェアをお選びいただくことで、iStorage NS のウィルスチェックを行うことが可能です。

オプションソフトウェアに関する詳細は、各ソフトウェア製品に添付の説明書をご参照ください。また iStorage NS のホームページ上にも公開情報がありますので、そちらもご参照下さい。

14.1. Trend Micro ServerProtect

Trend Micro ServerProtect のソフトの構成は次の３つとなっております。

- Trend Micro ServerProtect 管理コンソール
- Trend Micro ServerProtect 一般 サーバ
- Trend Micro ServerProtect Information Server

本書では Trend Micro ServerProtect インストール構成として次のような構成をとり、その基本的な運用の設定を記述します。

管理PC

- Trend Micro ServerProtect 管理コンソール

iStorage NS

- Trend Micro ServerProtect 一般サーバ
- Trend Micro ServerProtect Information Server

ServerProtect に関する注意事項

1. ServerProtect でウィルス検索を行う際は、すべてのドライブの snapshots フォルダを対象外と設定してください。
2. ServerProtect をインストール直後の既定値として、毎週金曜日の午前 2:00 から全ファイルスキャンしウィルスをチェックするように設定されています。全ファイルをスキャンすると、数時間 CPU を高使用率で使用することがあります。利用環境に合わせて設定を変更してください。

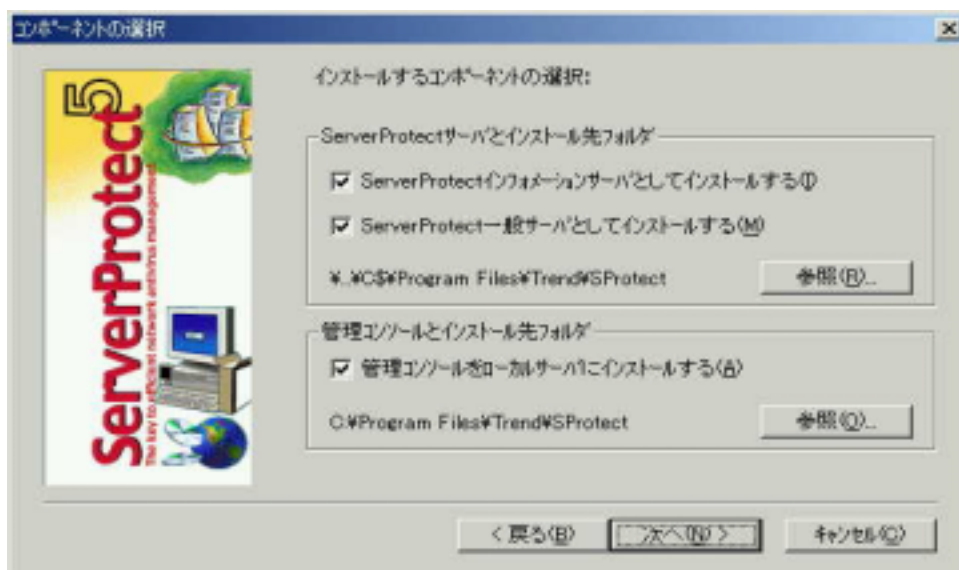
14.1.1　Trend Micro ServerProtect のインストールについて

① 管理 PC に ServerProtect の CD-ROM をセットしてください。 [スタート]-[ファイル名を指定して実行]を選択し、[（CD-ROM ドライブ）：￥PROGRAM¥SETUP.EXE]を実行してください。

② [ようこそ]ダイアログボックスで[次へ]ボタンをクリックすると、使用許諾書が表示されます。[はい]をクリックしてインストールを続行します。

③ システム領域のウィルスチェックが実行されます。ウィルスが発見されなかった場合は、その旨、メッセージが表示されますので、[ＯＫ]をクリックします。

④ ユーザー情報を入力するダイアログボックスが表示されます。名前、会社名、シリアルナンバーを入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

⑤ 以下のように、[コンポーネントの選択]ダイアログボックスが表示されます。すべての項目にチェックを入れ、[ServerProtect サーバとインストール先フォルダ]の[参照]ボタンをクリックして，インストール先を iStorage NS の C$¥ProgramFiles¥Trend¥Sprotect に変えて[次へ]ボタンをクリックしてください。

⑥ 参照ボタンをクリックしてそれぞれインストール先を指定してください。ServerProtect 一般サーバとインフォメーションサーバは iStorage NS にインストールします。

⑦ [ServerProtect インストール先の選択]が表示されたら、インフォメーションサーバと一般サーバをインストールする iStorage NS 名、ディレクトリを選択します。 [パスワードの入力]ダイアログボックスが表示されますので、管理者権限のあるユーザー名とパスワードを入力してください。

⑧ [インフォメーションサーバのセットアップ]ダイアログボックスで、パスワードを設定し、[次へ]ボタンをクリックします。以降はウィザードに従ってインストールを続行してください。

⑨ ファイルのコピーが終了したら[セットアップの完了]ダイアログボックスが表示されます。完了ボタンをクリックします。

以上で ServerProtect ソフトのインストールは終了です。

13.1.2　Trend Micro ServerProtect の基本的な運用の設定手順の紹介

Trend Micro ServerProtect では[タスク]を設定することによりウィルス対策保守を予約することができます。ここでは [Scan Now]（ウィルスチェック実行）のタスク手順を示します。

① 管理 PC にて[スタート]ボタンから[ServerProtect 管理コンソール]を起動してください。
② サイドバーから[タスク]－[新規タスク]をクリックしてください。
③ [ツリー]からタスク対象のサーバを選んでください。
④ 画面右の[作成]をクリックしてください。
⑤ [タスクの新規作成]ダイアログボックスにて、[既存のタスク：]から[Scan Now]を選び[タスクアイテムの追加]をクリックし､[予約済みタスク]－[定期的に実行するタスクとして作成]をチェックし[作成]ボタンをクリックしてください。

以下、お客様の仕様にあわせて進んでください。

15. 電源管理

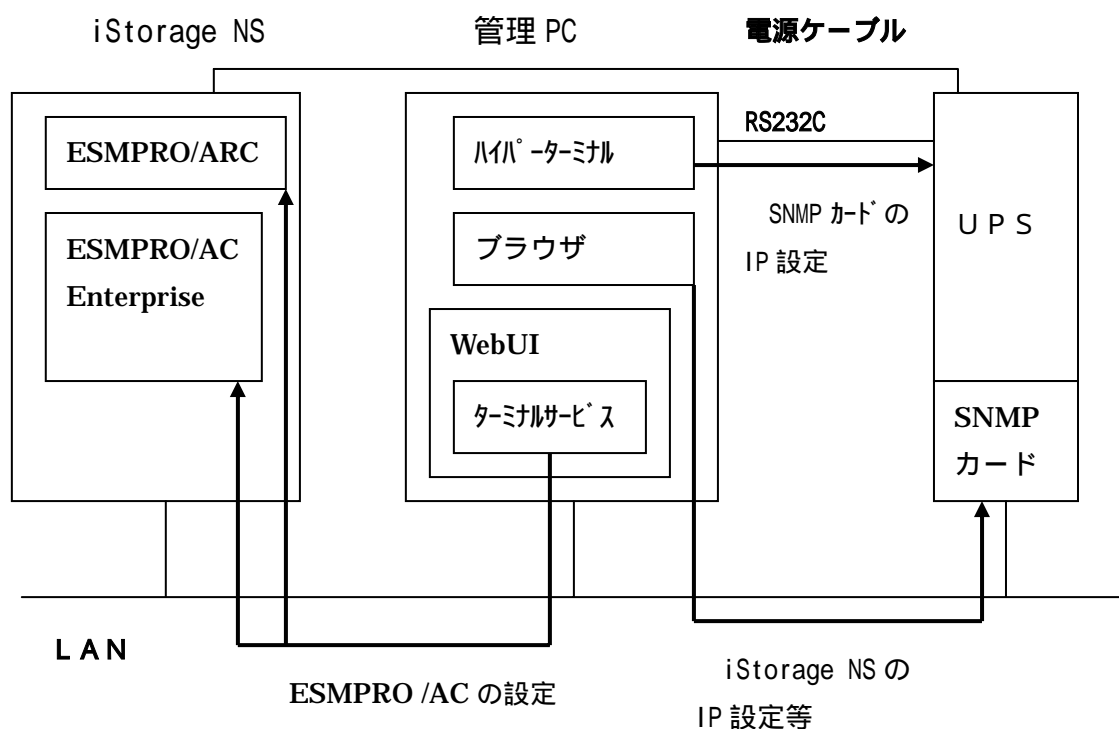
UPS を接続することにより、スケジュールによる電源 ON/OFF 機能、電源障害時のシャットダウン、など無人でのサーバの安全な運用を実現します。iStorage NS では、以下のソフトウェアをオプションとして導入することにより、UPS と連携した電源管理を行うことが可能です。

- ESMPRO/AutomaticRunningController
- ESMPRO/AC Enterprise Ver3.1

オプションソフトウェアに関する詳細は、各ソフトウェア製品に添付の説明書をご参照ください。

基本的な設定

- スケジュール運用

  設定されたスケジュールで、電源の自動投入、切断を行う。

15.1. ソフトウェアのインストール

15.1.1. 一括インストールの場合

① 管理ＰＣから WebUI で iStorage NS にアクセスし、ターミナルサービスを起動します。
② 添付の[Express Server Startup CD-ROM Express 5800/100 シリーズ用＃１(1/2)]を iStorage NS の CD-ROM ドライブにセットします。
③ Express Server Startup を起動します。（自動起動しない場合は、[スタート]→[ファイルを指定して実行]から CD-ROM ドライブを開き、[Expsetup.exe]を実行してください）
④ [インストール]→[一括インストール]を選択し、[製品名]一覧の[ESMPRO/AutomaticRunningController]をダブルクリックします。[バージョン／ユーザーセット数（UL 型番）]一覧の[バージョン 3.2　1 セット(UL1046-901)]をダブルクリックます。[インストールするソフトウェア]に[ESMPRO/AutomaticRunningController バージョン 3.2 1 セット(UL1046-901)]と表示されます。
⑤ [製品名]一覧の[ESMPRO/AC Enterprise]をダブルクリックします。次に[バージョン／ユーザーセット数（UL 型番）]一覧の[バージョン 3.1　1 セット(UL1046-502)]をダブルクリックます。[インストールするソフトウェア]に[ESMPRO/AutomaticRunningController バージョン 3.2 1 セット(UL1046-901)] と[ESMPRO/AC Enterprise バージョン 3.1　１セット(UL1046-502)]が表示されたら、OK ボタンをクリックします。
⑥ 以降、インストール先のドライブ、KeyFD をセットするドライブ、氏名／会社名の情報を設定する画面が表示されますので、それぞれ入力し OK ボタンを押します。
⑦ [ソフトウェア名　ESMPRO/AutomaticRunningController バージョン 3.2(UL1046-901)の KeyFD をドライブｘにセットして下さい]と表示されたら、iStorage NS のフロッピーディスクドライブに KeyFD をセットし、OK ボタンをクリックします。
⑧ インストールが正常に終了したら、ダイアログボックスの OK ボタンをクリックして終了します。
⑨ WebUI で iStorage NS を再起動します。

15.1.2 [ESMPRO/AutomaticRunningController]を個別インストールする場合

① iStorage NS に CD-ROM 媒体をセットし、Express Server Startup を起動します。
② [KeyFD をセット後、そのドライブ名を入力してください]と表示されたら、iStorage NS の FD ドライブに KeyFD をセットし、ドライブ名を入力して OK ボタンを押します。
③ [インストールするソフトウェアを選択してください]と表示されたら、[製品名]一覧の[ESMPRO/AutomaticRunningController]をダブルクリックします。[バージョン／ユーザーセット数（UL 型番）]一覧の[バージョン 3.2　1 セット(UL1046-901)]をダブルクリックします。[インストールするソフトウェア]に[ESMPRO/AutomaticRunningController バージョン 3.2　1 セット(UL1046-901)]と表示されたら、OK ボタンをクリックします。
④ 氏名／会社名を入力し、OK ボタンをクリックすると、以降、ウィザードに従ってインストールするドライブなどの情報を設定し、[続行]ボタンを押します。インストールが正常に終了したら OK ボタンを押して終了します。

補足：インストールの途中に[UPS 使用での運用]または[装置なしでの運用]を選択するダイアログボックスが表示されたら、[装置なしでの運用]を選択してください。

⑤ WebUI で iStorage NS を再起動します。

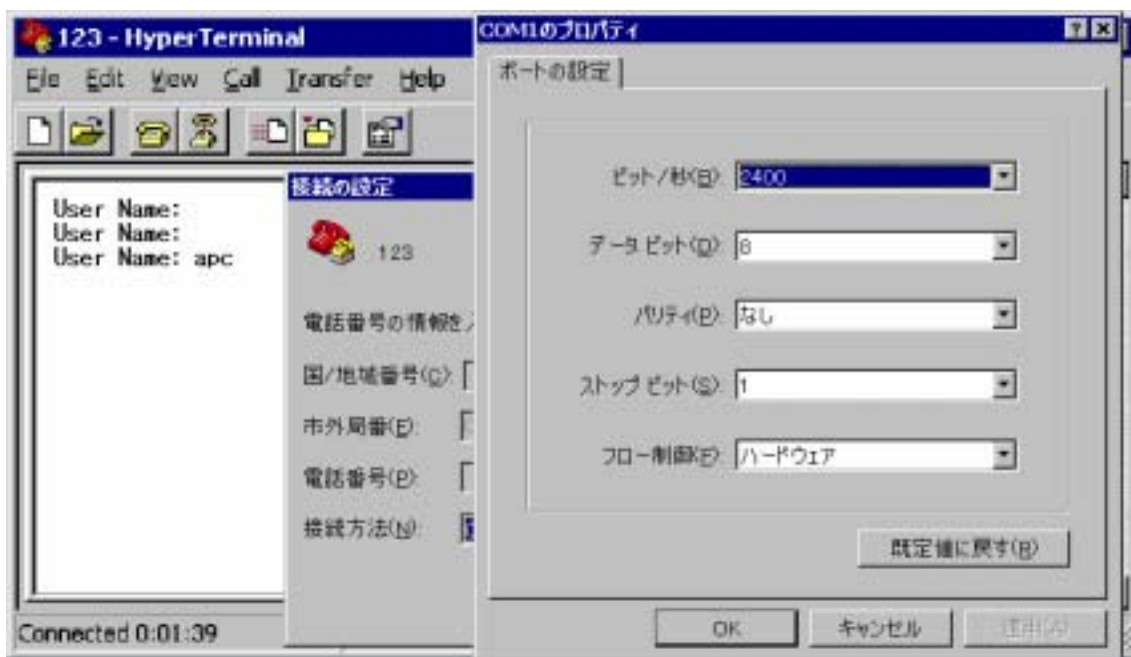
15.1.3 [ESMPRO/AC Enterprise]を個別インストールする場合

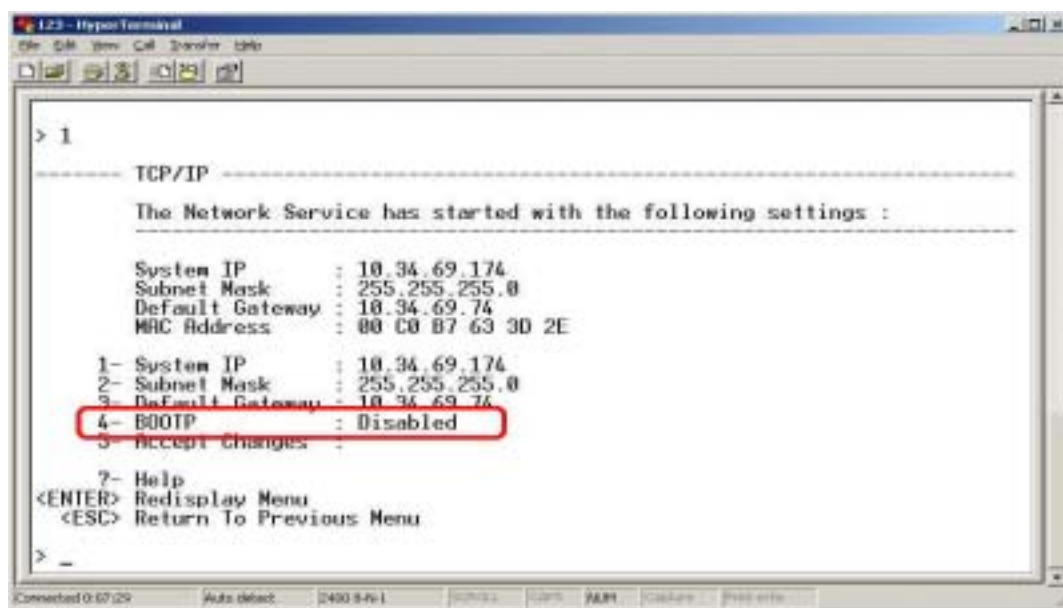
① iStorage NS に CD-ROM 媒体をセットし、Express Server Startup を起動します。
② [KeyFD をセット後、そのドライブ名を入力してください]と表示されたら、iStorage NS のフロッピーディスクドライブに KeyFD をセットし、ドライブ名を入力して OK ボタンを押します。
③ [インストールするソフトウェアを選択してください]と表示されたら、[製品名]一覧の[ESMPRO/AC Enterprise]をダブルクリックします。[バージョン／ユーザーセット数（UL 型番）]一覧の[バージョン 3.1 1 セット(UL1046-502)]をダブルクリックます。[インストールするソフトウェア]に[ESMPRO/AC Enterprise バージョン 3.1 １セット(UL1046-502)]と表示されたら、OK ボタンをクリックします。
④ 氏名／会社名を入力し、OK ボタンをクリックすると、以降、ウィザードに従ってインストールするドライブなどの情報を設定し、[続行]ボタンを押します。インストールが正常に終了したら OK ボタンを押して終了します。

WebUI で iStorage NS を再起動します。

15.2. SNMP カードの設定

15.2.1 ハイパーターミナルでの設定

管理 PC と UPS を RS232C ケーブルで接続し、SNMP カードの設定を行います。
① UPS の電源を ON し、添付の RS232C ケーブルで管理 PC と接続します。
② 管理 PC でハイパーターミナルを起動し、以下のように設定します。（ここでは、管理ＰＣの COM１ポートを使用する設定を紹介しています。）

③　空白の画面で Enter キーを数回押し、ユーザー名、パスワードを入力します。(初期値はどちらも[apc])

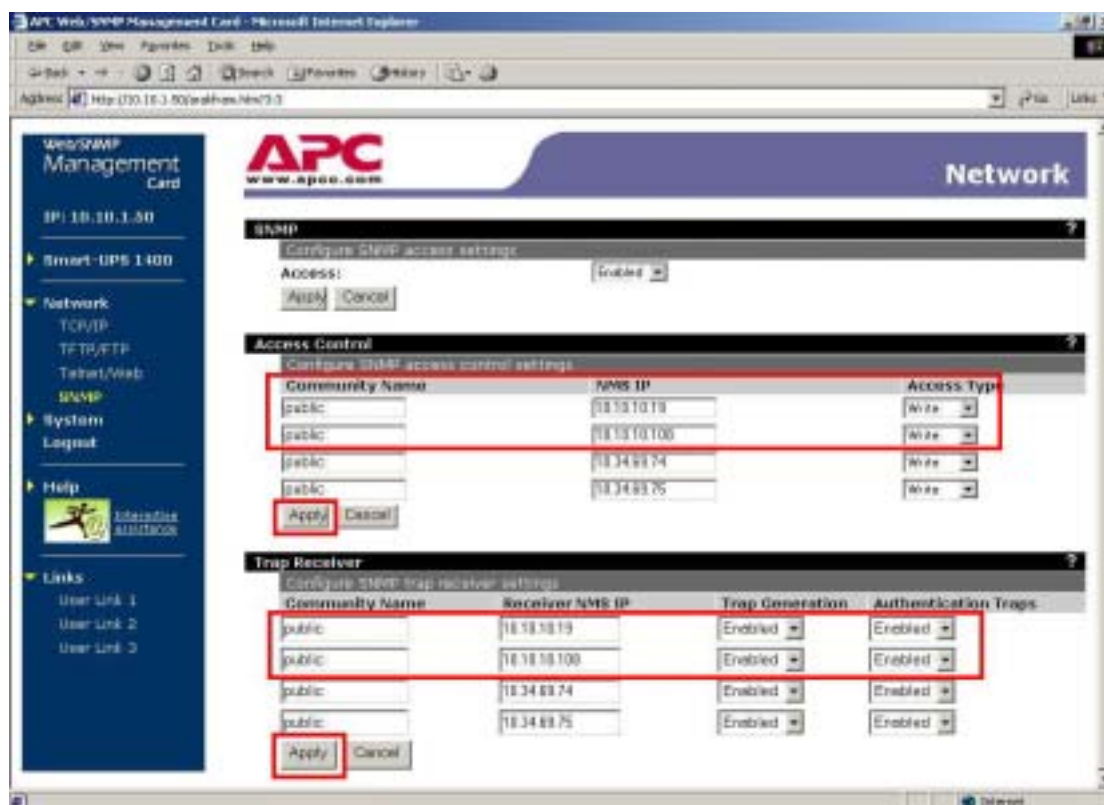
④　[2:NetWork]→[1:TCP/IP]を選択し、[4:BOOTP]が[Disable]になっていることを確認します。[Enable]の場合は設定を変更してください。

⑤　同じメニューで UPS の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを設定します。(デフォルトゲートウェイが存在しない場合は、iStorage NS の IP アドレスを設定してください)

⑥　設定が終了したら、[5:Accept Changes]を実行し、ESC キーを数回押して[Control Console]メニューまで戻り、logout してハイパーターミナルを終了します。

15.2.2 WEB による設定

① シリアルケーブルによる IP 設定の終了後は、管理 PC から Internet Explorer でアクセスできます。アドレスに[http://（SNMP カードの IP アドレス）]を入力して Enter キーを押します。

② ユーザー認証画面が表示されたら、ユーザー名とパスワード（初期値では“ apc ”）を入力し、OK ボタンを押します。

③ 最初の画面で、[Network]→[SNMP]をクリックすると以下のような画面が表示されます。[Access Control]及び[Trap Receiver]を設定します。設定後はそれぞれ[Apply]ボタンをクリックしてください。

補足：

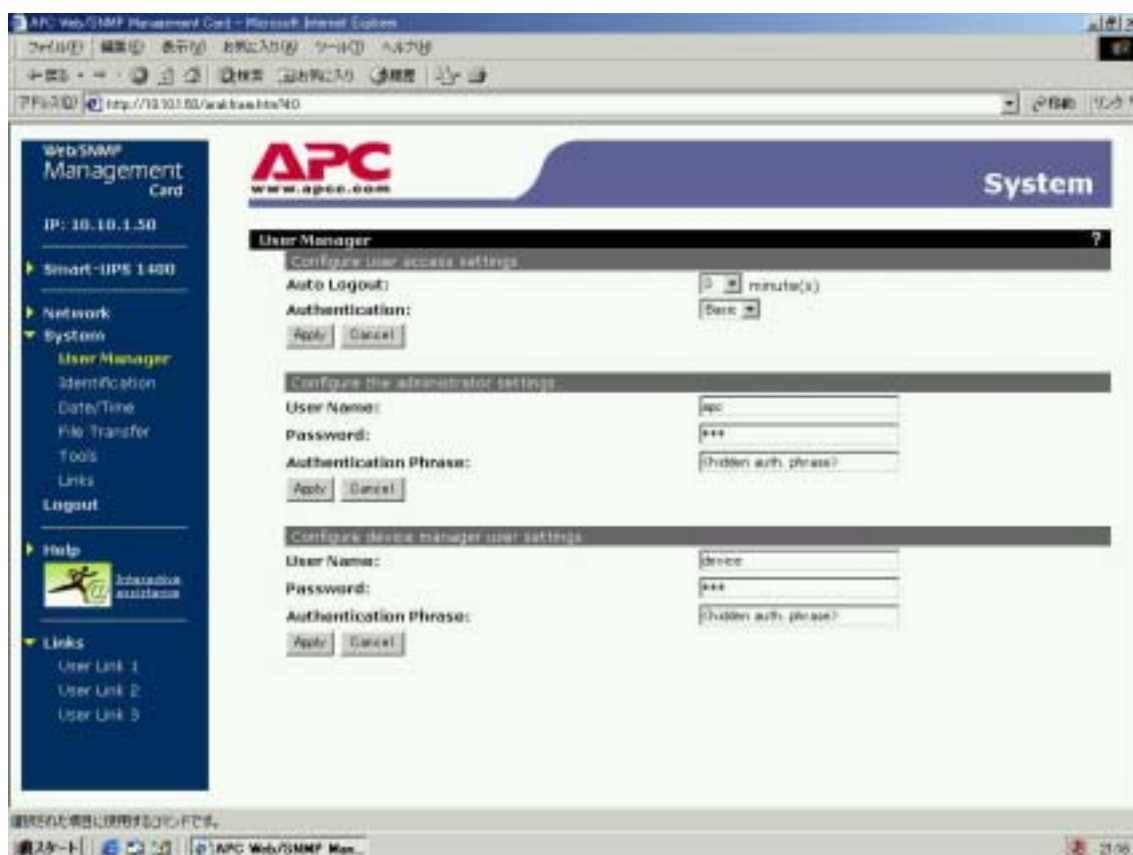
Community Name: SNMP で使用する識別名（通常は public）

NMS IP　　　　: SNMP でアクセスする iStorage NS の IP アドレス

Access Type　　: [Write]を選択する

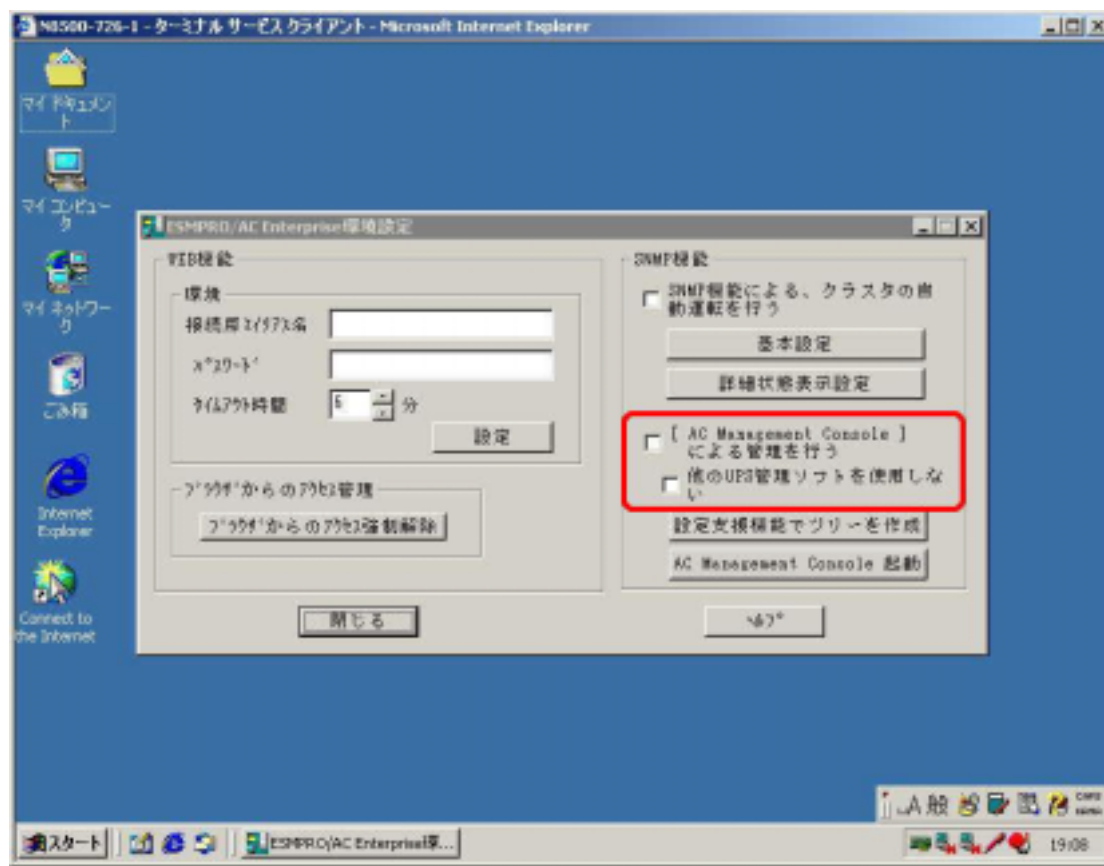
Receiver NMS IP : SNMP でアクセスする iStorage NS の IP アドレス

Trap Generation/Authentication Traps: [Enabled]を選択する

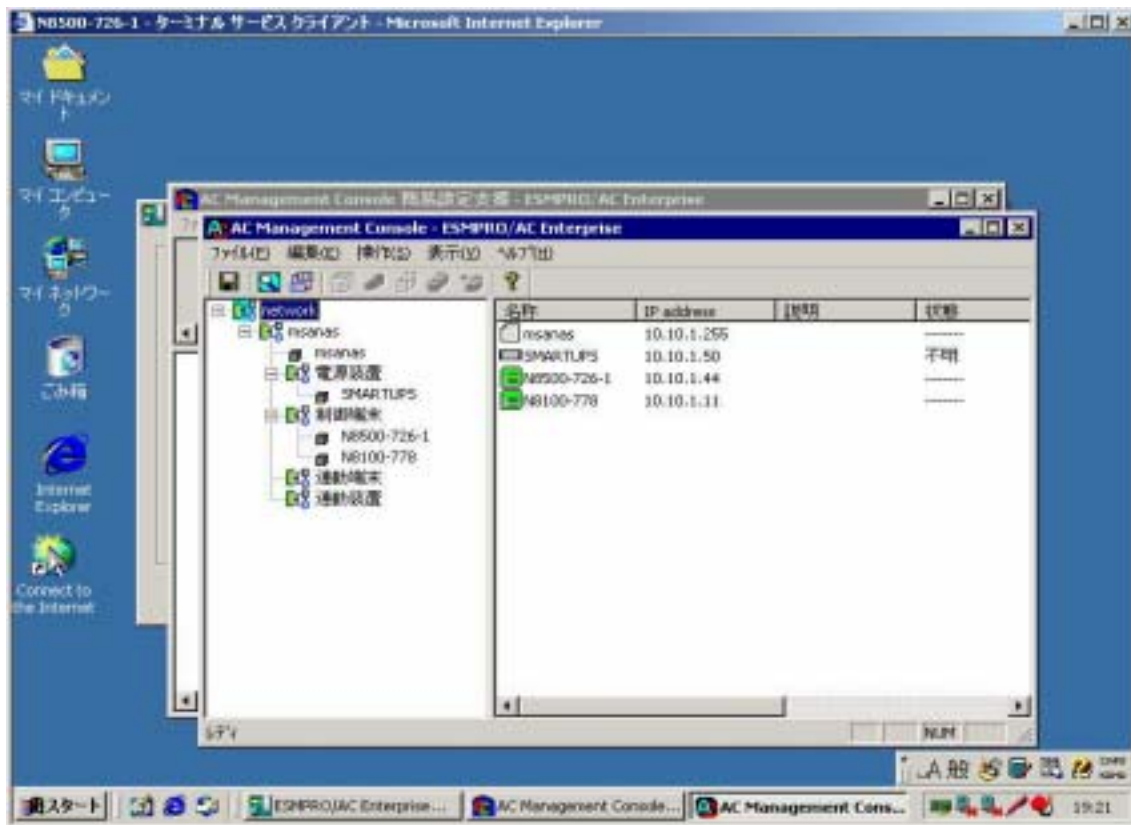
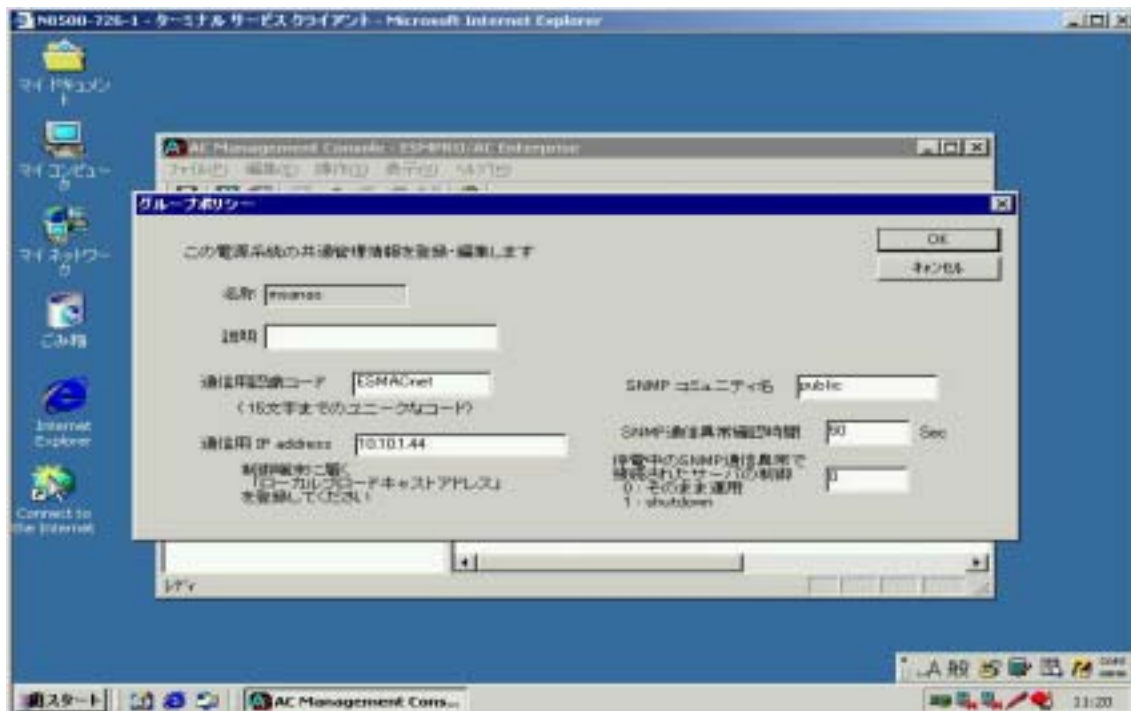
④ [System]→[User Manager]を選択すると、以下のような画面が表示されます。セキュリティのため、ユーザー名、パスワードを変更することをお勧めします。（設定変更後は必ず[Apply]ボタンを押してください。）

15.3. ESMPRO/AutomaticRunningController の設定

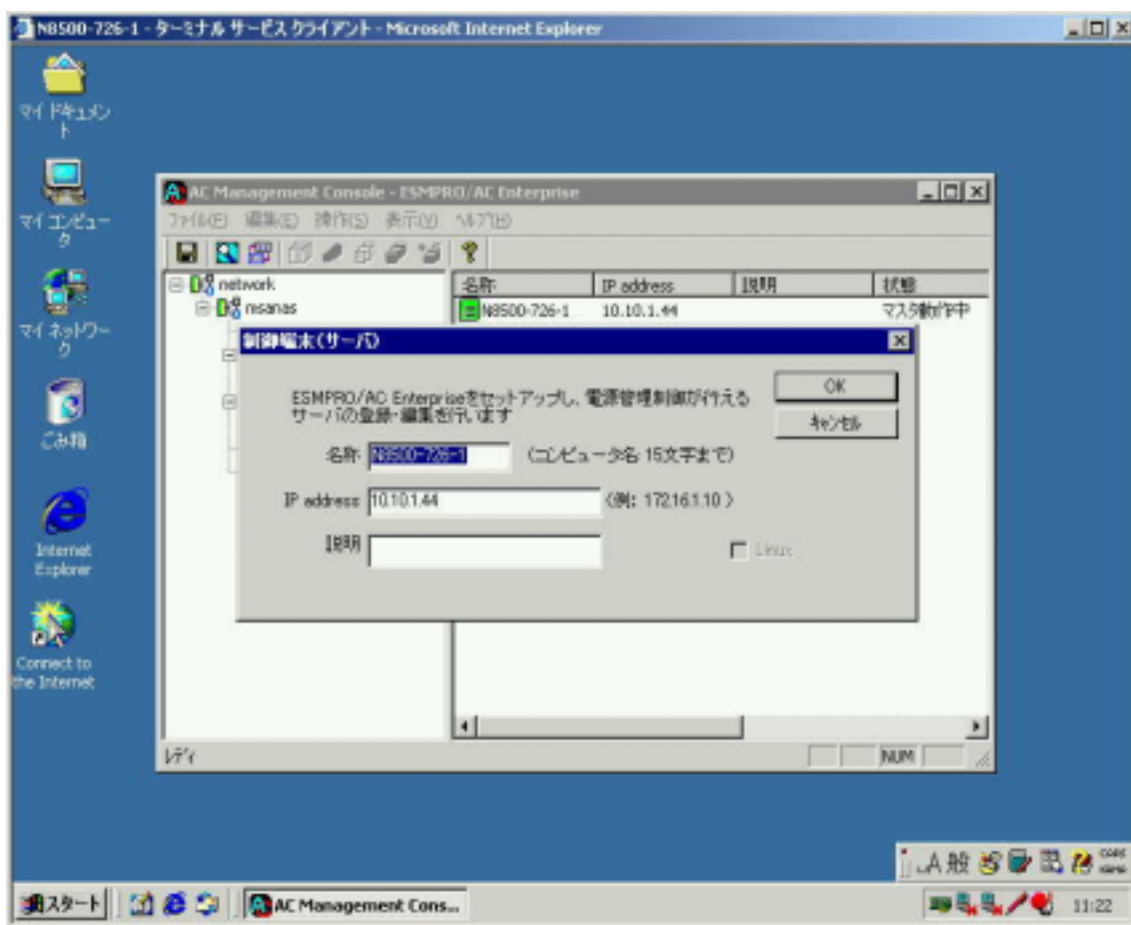
① 管理 PC で WebUI を使用して iStorage NS に接続します。

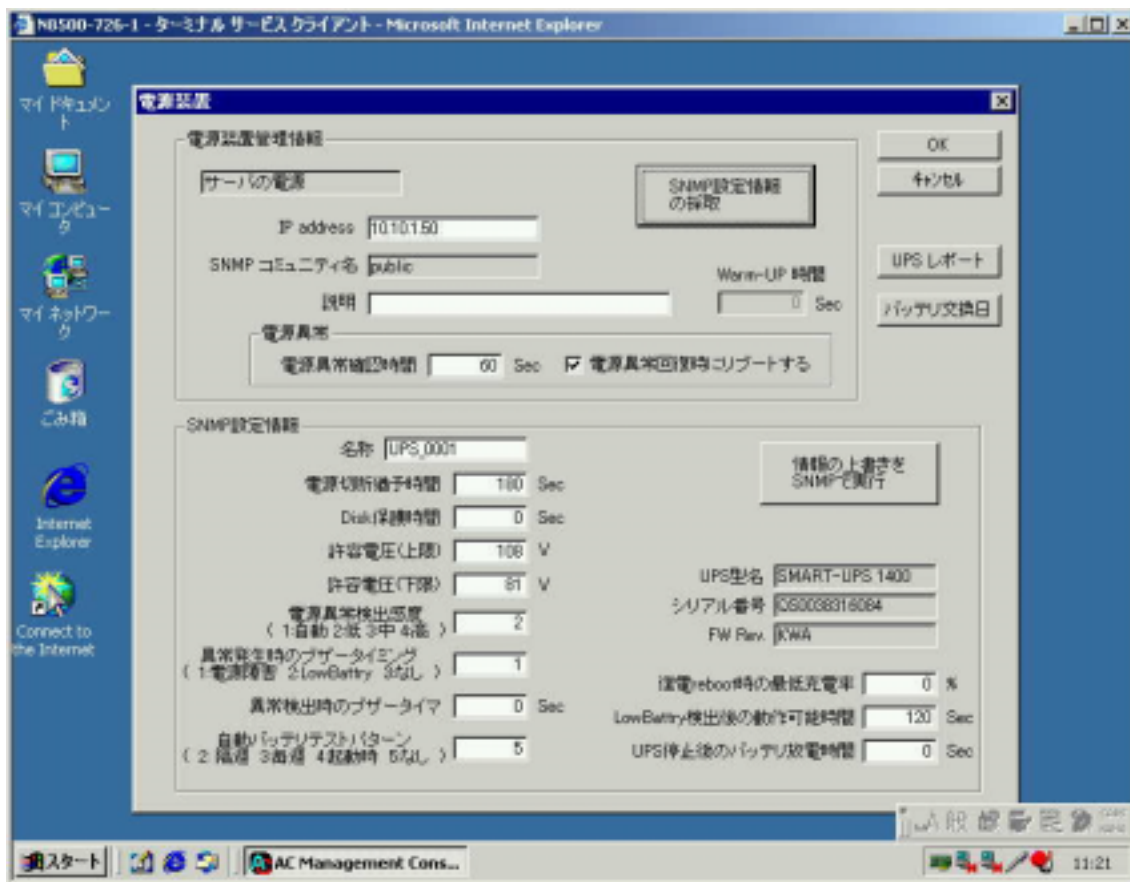
② ターミナルサービスを起動し、[スタート]→[プログラム]→[ESMPRO_AutomaticRunningController]→[環境設定]をクリックします。

③ 以下の画面で、[AC Management Console による管理を行う]と[他の UPS 管理ソフトを使用しない]を有効にします。

④　[設定支援機能でツリーを作成]をクリックし、[AC Management Console 簡易設定支援-ESMPRO/AC Enterprise]を起動します。

⑤　[設定ファイルの作成]をクリックし、以降、ウィザード画面に従って UPS、iStorage NS の情報を設定します。[マルチサーバ設定設定確認]ウィザードで[完了]ボタンをクリックすると AC Management Console 画面を自動起動するようメッセージが表示されますのでＯＫボタンを押します。

⑥　以下のような画面が表示されます。設定が正しく反映されているか確認してください。

⑦　画面左のツリーでグループ名を選択し、[編集]→[登録情報編集]をクリックします。以下のような画面が表示されます。正しく設定してください。

⑧　画面左のツリーで[制御端末]下にあるサーバ名を選択し、[編集]→[登録情報編集]をクリックします。

以下のような画面が表示されます。正しく設定してください。

⑨　画面左のツリーで[電源装置]下にある UPS 名を選択し、[編集]→[登録情報編集]をクリックします。

以下のような画面が表示されます。

⑩　[IP Address]が SNMP ボードで設定した IP アドレスになっているかを確認して、[SNMP 設定情報の採取]をクリックします。設定が正常であれば、[SNMP 設定情報]に値が表示されます。環境に合わせて設定を編集し、OK ボタンを押します。設定情報が取得できない場合は、SNMP ボードの設定を再確認してください。

⑪　編集が終了したら[ファイル]→[設定保存]を行い、設定ファイルを保存します。

⑫　WebUI から iStorage NS を再起動してください。

15.4.　ESMPRO/ARC の自動電源制御方法

デフォルトで通常設定として 9：00~17：00 が設定されていますが、これを変更して運用する方法を紹介します。

①　管理 PC から WebUI で iStorage NS に接続し、ターミナルサービス画面を接続します。

②　[スタート]→[プログラム]→[ESMPRO_AutomaticRunningController]→[ESMPRO_AC]をクリックし、[ESMPRO/AutomaticRunningController]画面を起動します。

③　[監視要因]ボタンをクリックし、[投入要因]と[切断要因]タブで[スケジュール]を有効にします。次に[スケジュール]ボタンをクリックし、電源を自動投入、切断する時間を設定します。初期値ではすでに運

用スケジュールが通常設定として設定されていますが、ここではそれを変更する方法を紹介します。

④ [スケジュール表示]タブの運用スケジュールの設定された項目を選択し、[修正]ボタンをクリックします。[スケジュール修正]ダイアログボックスが表示されたら、投入時間および切断時間を修正し、OKボタンを押します。運用スケジュールが変更されたことを確認してＯＫボタンを押します。以降、メッセージが表示されたら OK ボタンを押します。

> 📖 iStorage NS の電源ボタンを押してシャットダウンすると、次回 UPS による自動電源投入が実行されません。手動で行う場合は[スタート]→[プログラム]→[ESMPRO_AutomaticRunningController]→[ESMPRO_AC シャットダウン]を実行してください。UPS の OFF ボタンでは電源がそのまま切断されてしまうのでご注意ください。